

On the proper use of “uchini”, “maeni”, “aidani” and “madeni”

Yukiko Muramatsu

This paper discusses the expressions to limit time in Japanese.

First I regard “uchini”, “maeni”, “aidani” and “madeni” as one group and show the proper use of these words. And then this paper attempts to contrast these four words with Chinese to make clear the difference of the way to express the time relation of two occurrences between Japanese and Chinese.

「うちに」「まえに」「あいだに」「までに」について

村 松 由起子

1. はじめに

「うちに」「まえに」「あいだに」「までに」は、2つの出来事の時間的な関係を表わすのに用いられ、その2つの出来事の関係が、従属節の出来事（以下Pとする）が実現または完了する以前に、主節の出来事（以下Qとする）が生じるという点で共通している。

そして、これらの語は、相互に置き換えの可能な場合が多く、なかでも、次の(1)(2)(3)のように、「うちに」と「まえに」、「うちに」と「あいだに」、「まえに」と「までに」の組合せについては、従来から、それぞれの意味、機能の相違が論じられてきた¹⁾。

(1) 暗くならないうちに帰ろう。

暗くなるまえに帰ろう。

(2) 私が休憩しているうちに仕事が終わってしまった。

私が休憩しているあいだに仕事が終わってしまった。

(3) 田中さんが来るまえに部屋を片付けなければならない。

田中さんが来るまでに部屋を片付けなければならない。

しかし、このような2語の組合せによる相違点の考察では、それぞれの語の用法や意味を明らかにすることはできても、時間的な限定について、日本語がどのような体系を持つのかを解明することはできない。そこで、本稿では、PQの時間的前後関係が共通するこの4つの語を1つのグループとし、グループ内でのそれぞれの語の機能を考察することにより、日本語の時間的な限定を示す表現の体系を明らかにしてみたい。

また、これらの語の使い分けは、日本語を学習する外国人にとって難しい文法事項となっているが、それは、時間を限定する表現でありながら、これらの語を使い分ける基準が、PQの時間的前後関係以外にも存在するためである。

例えば、中国語では、(4)(5)(6)はすべて「以前」の類で表わされるが、日本語では(4)「うちに」、(5)「まえに」、(6)「までに」となるため、中国語話者にとっては、日本語の時間的な限定を示す表現の使い分けは難しいといえる。

- (4) 趁天没有黑以前回去吧。

暗くならないうちに帰りましょう。

〈汉〉

- (5) 来日本前学了一点日语。

日本へ来る前にすこし日本語を勉強した。

〈汉〉

- (6) 在列车到达北京之前吃了饭了。

列車が北京につくまでに食事をした。

〈汉〉

そこで、本稿の後半では、日本語の時間的な限定を示す表現が、他の言語と比較した場合にどのような特徴を持つのかについても検討してみたい。本稿では、他の言語として中国語を考察の対象とし、日本語と中国語の時間的な限定を示す表現の相違点を述べることにする。

なお、時間的な限定を示す表現の全体像を解明するには、「～てから」「あとで」など、本稿で扱うグループには含まれない語についても考察を必要とするが、これら他の類については別稿で扱うこととする。

考察の手順としては、まず、「うちに」「まえに」「あいだに」「までに」について先行研究で明らかにされている成果を述べ、さらに本稿での若干の考察を加えた上で、グループ内におけるそれぞれの語の機能を明らかにする。そして、次に、日本語と中国語の時間的な限定を示す表現を比較し、その相違点を述べることにする。

2. 「うちに」と「まえに」

まず、先行研究で明らかにされている「うちに」と「まえに」の相違点とそれぞれの意味について述べたい。

「うちに」の用法については、先行研究でさまざまな分類がなされているが²⁾、本稿の目的は、用法を分類することではないので、ここではふれない。しかし、「まえに」や「あいだに」との交換関係や、後半で述べる中国語との比較を考慮すると、便宜上、寺村(1992)³⁾の2つの型に分けておくことは有用である。以下は寺村(1992)が分けた2つの型とその一例である。

第一のタイプ Pは、ただの時の幅ではなく、いずれその時期が終わって、次の対立する時期に移行する、そういう未来のある時期と対立するものとして把握された時の幅である。

例 農家の主婦は集団で朝暗いうちに家を出て基地建設に向かい、暗くなってから帰って来る。

第二のタイプ はじめはQでない事態、いわばマイナスQの事態であった、それが、Pという事態が進行して徐々に、段々事情が思わぬ方向に発展して遂にQという事態になった、そういうことを表す表現である。

例 あるベルギー人の神父が日本にやってきた。しばらく暮らすうちに肩がこりだした。これまでにない感覚。

このうち、「～ないうちに」の形で「まえに」との交換が成立するのは第一のタイプであり、以下、

第一のタイプについて述べていくことにする。

- (7) 手おくれにならないうちに、治療を受ける気になられてけっこうでした。 〈気の毒〉
(8) のみならず妾宅に置いてあった玄鶴の秘蔵の煎茶道具なども催促されぬうちに運んで来た。

〈玄〉

- (9) あまり暗くならない内に水を汲もうと立ち上がった。 〈野火〉
(10) 母や自分から、友子が近いうちに、離れて行くのだと、品子は感づいた。 〈舞姫〉

(7) (8) (9) の「否定形＋うちに」については、「まえに」を用いた表現に置き換えることが可能であるが、(10) のような「肯定形＋うちに」の場合には、「まえに」との交換が難しくなる。ただし、Pの状態の変化がはっきりしている場合は「明るいうちに帰る」と「暗くなるまえに帰る」のように類似した状況を表わすことも可能である。

では、交換が成立する場合、「～なうちに」と「まえに」にはどのような違いがあるのだろうか。

久野 (1973)⁴⁾ は、(11) から (15) では「まえに」が使えないことを示し、「まえに」はPの生じる時間がはっきりわかっている点で「うちに」と異なると指摘している。

- (11) ?雨が降ルマエニ帰りマシヨウ。
(12) *忘レルマエニ返事ヲ書キマシヨウ。
(13) ?死ヌマエニオイシイモノヲ沢山食ベテオキマシヨウ。
(14) ?叱ラレルマエニヤメマシヨウ。
(15) ?オ金ガナクナルマエニ帰りマシヨウ。

久野はこれらの例の不自然さについて、Pの生じる時間を問題にしているが、生じる時間よりも、むしろ、Pの生起の確実性が問題であると考えている。久野自身、(12) の例に*印を付け、他の?印の例と区別しているが、この違いは、「雨が降る」「死ぬ」「叱られる」「お金がなくなる」ことは、条件さえあれば、確実に生起することとして予測できるが、「忘れる」というのは、確実に生起するのかわからないことにある。実際、?印の(11) (13) (14) (15) でも、出来事が確実に生じることがわかっている場合には、生じる時間が明確でなくても成立するであろうし、次の(16)の「財布をなくす」や(17)の「風邪を引く」のように、出来事の生起が不確定な場合には、(12)と同様、「まえに」で表わすことはできないであろう。

- (16) *財布をなくすまえに、ちゃんとカバンにしまっておきなさい。
(17) *きょうは冷え込むから、風邪を引くまえに早く寝よう。

ここで、時の幅の視点から、「まえに」について、Pが成立するどのくらい以前の時間を表わすのかも考えておきたい。実際の用例を見ると、(18) (19) (20) のようにPが成立する直前ともいえるくらい限られた時間を表わす場合もあれば、(21) のようになんか時の幅がある以前を表わす場合もある。

- (18) では、事情をうかがう前に、市民カードの番号をどうぞ。 〈番〉
(19) お父さんは、博物館へいらっしやると、いつも出る前に、この興福寺の須菩提と沙羅のとこ

るへ、必ず来て、しばらくお立ちになるでしょう。

〈舞姫〉

(20) さっき、日比谷の公会堂へはいる前にも、いちょうの木が四、五本、公園の出口にも、いちょうが四、五本ありましたでしょう。

〈舞姫〉

(21) 玄鶴はお芳を囲い出さない前にも彼女には「立派なお父さん」ではなかった。〈玄〉

(18) は、「事情をうかがう」直前の発話であり、(19) (20) は、博物館内にいる時間や公会堂に向かう途中をさらに「出る前」「はいる前」に限定しているために、時の幅が狭くなっている。このように、「まえに」で表わされる時の幅は、状況や文脈によって異なり、P以前のある時期に限定されることもありうるのである。

次に「うちに」の用法上の制約について述べる。

久野(1973)は、「～ないうちに」には、「Pが過去の出来事である場合には使用することができない」という制約があることを指摘し、

(22) 太郎が死ナナイウチニ、オ金ヲ借りテオイタ。

は「太郎が生きていれば成り立つが、すでに死んでいれば成り立たない」としている。久野は「～ないうちに」がなぜ過去の出来事を表わせないかについては述べていないが、筆者が考えるに、これは、「借りテオイタ」の「タ」が、発話時を基準にしており、Qと発話時とが結びついているために、お金を借りた時点と発話時での太郎の状態が同じでなければならないからであろう。つまり、「借りた」時点と発話時の間に「太郎が死ぬ」という事態は入り得ないために、お金を借りた時点で太郎が生きていれば、発話時においても生きていことになるのである。逆に言えば、「太郎が死ナナイウチニ、オ金ヲ借りテオイテヨカッタ」のように、Qと発話時が結びつかない場合には、Pが過去の出来事であってもかまわないであろう。

この制約が問題になるのは、「まえに」との交換が可能な「うちに」であり、「あいだに」との交換が問題になる「うちに」については、次の(23) (24)のように、Pがすでに生じたあるいは完了した出来事であっても、「うちに」を用いることができる場合もある。

(23) 太郎が生きているうちにお金を借りておいた。

(24) 太郎はしばらく会わないうちにずいぶん大きくなったね。

(23) は、発話時における太郎の生死に関わらず成立するであろうし、(24) は、久しぶりに太郎に会った後の発話として自然な表現である。

3. 「うちに」と「あいだに」

次に、「うちに」と「あいだに」の違いについて述べる。

寺村(1992)⁵⁾は、「Pうちに」は、Pが「外」に対する「内」という見方で把握された時の幅だという点で、「Pあいだに」と異なるとしている。また、Qについても、「PあいだにQ」が「単にPという時間の幅のどこかでQという事態が生起する」ことを表わすのに対し、「PうちにQ」は、「それに対立するP'という時に移行したとき実現不可能か、困難になるような事態であるか、または、そのような事態が起こるのが普通でないような事態である」とも述べている。

ただし、Pにこのような含みがあるのは、「あいだに」と交換が問題になる「うちに」であり、「まえに」と交換が問題になる「うちに」は、このような含みを持たない場合もある。

(25) 彼は病気が完全に治らないうちに、仕事に復帰した。

(25) の場合、病気が治ってから、つまり、P'に移行したときのほうがむしろ好ましいであろう。「あいだに」は、第一のタイプの「うちに」と第二のタイプの「うちに」の両タイプと交換が成立する点で、第一のタイプとしか交換が成立しない「まえに」と異なる。次の(26)(27)(28)は第二のタイプの例である。

(26) 私は一か月ばかり会わないうちに、彼がもう主人の声を忘れてしまったものと思って、微かな哀愁を感じずには居られなかった。 <硝>

(27) けれども、また私は、彼等と交際しているうちに、拷問者というものは、一般に考えられているような単純な野蛮者、暴力者ではないとはっきりわかった。 <白>

(28) 彼女はパリに住んでいるうちに、だんだん烈しい懐郷病に落ちこみ、夫の友だちが帰朝するのを幸い、一しょに船へ乗りこむことにした。 <玄>

第一のタイプのPでは、状態動詞以外の動詞は否定形か(テ)イル形で用いられるが、第二のタイプのPでは、(27)(28)のような(テ)イル形のほかにル形でも用いられる⁶⁾。

(29) 思えば二年間して積みあげたわたくしの心も、ほんの三、四度お目にかかるうちに、もうあとかたもなく、うちくだかれてしまいました。 <天>

この第二のタイプについては、(27)のように現在進行中の状態を述べるタイプと、(29)のように繰り返し行なわれる出来事を述べるタイプの2種類がある。この点については、後述する中国語との比較で詳しく述べたい。

4. 「まえに」と「までに」

「うちに」と「まえに」の相違点、そして、「うちに」と「あいだに」の相違点に共通するのは、「まえに」「あいだに」が単に時間を限定して述べるのに対して、「うちに」は話者がPに対立するP'を意識しながら時間を限定していることであるが、「まえに」と「までに」の違いもこれと共通している。つまり、「までに」は「うちに」と同じように、Pに対立するP'を意識しながら時間を限定する表現である。

寺村(1992)⁷⁾は、「までに」の特徴について、「PマデニQは、話し手が、P点以後の事態に関心をもち、それがQの生起の結果実現する状態であること、その実現が少なくともP点であること」であると述べているが、「までに」が「うちに」と異なるのは、このPとQの関係であり、「うちに」の場合は、Qの生起後Pが実現せず終わってしまってもかまわないが、「までに」の場合は、Pは、Qの生起の後実現または成立する出来事でなければならないことである。次の(31)(32)のように、Qの生起後Pが実現しなくなってしまう場合には、「までに」を用いることはできない。

(31) 風邪をこじらせないうちに、病院へ行ったほうがいい。

*風邪をこじらせるまでに、病院へ行ったほうがいい。

(32) 催促されないうちに、借りたお金を返した。

* 催促されるまでに、借りたお金を返した。

(31) (32) では、「病院へ行く」「お金を返す」ことが実現すれば、「風邪をこじらせる」「催促される」ことは生じなくなるため、「までに」で表わすことができないと考える。この「までに」の用法上の制約は、前述した「まえに」の「Pの生起が確実でなければならない」という制約と共通するように思われるが、しかし、これをPとQの関係から考えてみると、異なることがわかる。

「まえに」は、(33) のようにQが生起するしないに関わらずPが生じる場合と、(34) のようにQが生起しないときPが生じる結果になる（Qの生起によってPは生じなくなる）場合の両方において使用することができるが、「までに」は、後者の場合には使用できない。この点で、「まえに」と「までに」は異なっているのである。

(33) 暗くなるまえに仕事を片付けてしまう。

暗くなるまでに仕事を片付けてしまう。

(34) 風邪をこじらせるまえに病院へ行ったほうがいい。

* 風邪をこじらせるまでに病院へ行ったほうがいい。

4. 日本語の時間限定表現 ーうちに、まえに、あいだに、までに

「うちに」「まえに」「あいだに」「までに」の相違を次にまとめておく。

	うちに	あいだに	まえに	までに
Pの性質	状態	状態	出来事	出来事
Pの形	形容詞 名詞+な／の 状態動詞 テイル形 ル形 否定形	形容詞 名詞+な／の 状態動詞 テイル形 ル形 タ形 否定形	名詞 (+の) ル形 否定形	名詞 ル形
Pの制約	Qが発話時と結びついている場合過去の出来事は不可		実現が確実 (Qの生起によって未実現に終わってもよい)	実現が確実 (Qの生起に関係なく必ず実現)
P'との対立	あり	なし	なし	あり

5. 中国語との比較

中国語は、基本的には、日本語の「うちに」「までに」と「まえに」「あいだに」の対立に相当す

る区別をしない。基本的にというのは、中国語の「趁」が、「うちに」の第一のタイプとよく似ているため、全く区別しないとはいきれないからである。

中国語の「趁」は、「趁～以前／時候／期間」などの形で「利用可能な機会や条件」⁸⁾を表わすのに用いられ、日本語の「うちに」と対応することが多い。

(35) 趁早上凉快时学习。

朝すずしいうちに、勉強します。 〈日〉

(36) 趁没有下雨之前回去吧。

雨がふらないうちに帰りましょう。 〈日〉

(37) 趁小王还没来，把屋子扫除一下吧。

王さんが来ないうちに、部屋の掃除をしてしまいましょう。 〈日〉

しかし、この対応関係が成立するのは、「うちに」が第一のタイプである場合に限られ、しかも、Pは対立するP'よりもQの実現にとって望ましい状態でなければならない。次の(38)(39)は第一のタイプ、(40)(41)は第二のタイプの「うちに」であるが、これらは、上記の条件を満たしていないので、「うちに」と「趁」の対応関係は成立しない。

(38) 小王开车技术尚不熟练，却驾车去了远处。

王さんは運転が未熟なうちに、車で遠くへ行きました。 〈日〉

(39) 话还没有说完就有人提问题。

話が終わらないうちに、質問した人がいた。 〈日〉

(40) 在查资料的过程中，知道了许多事情。

資料を調べるうちに、いろいろなことが分かってきました。 〈日〉

(41) 听着老师的话，想起了自己祖国的事情。

先生の話をお聞いているうちに、自分の国のことを思い出しました。 〈日〉

第二のタイプの「うちに」の場合、中国語では(40)(41)のように「～過程で」(在～过程中)「～しながら」(～着)といった表現を用いることが多い。しかし、過程といっても、(40)(41)のようにある動作が行なわれている最中である過程と、ある動作が繰り返し行われる過程があり、日本語ではどちらの過程でも共に「うちに」を用いることができるが、中国語では表現方法が異なるため、この2種類の過程を区別する必要がある。

問題となるのは、後者の繰り返しの過程であるが、PとQの関係で考えた場合、日本語ではPが繰り返される過程でQが生じたと考えのに対し、中国語ではPが繰り返された結果Qが生じたと考え、日本語と中国語では捉え方が異なるようである。

(42) 不过，吃了几回之后就能品出味道了。

でも何回か食べているうちに味がわかるようになりました。 〈標〉

日本語では「食べる」ことが繰り返されていく過程で「味がわかるようになった」と捉えているが、中国語では「食べる」ことが繰り返された結果「味がわかるようになった」と捉えている。つまり、このタイプの過程は、中国語では「～てから」「～たあと」の類を用いた表現になるのである。

次に「まえに」についてであるが、日本語の「まえに」は前述したように、Pの生起が確実でない場合には用いることができないが、中国語の「以前」は、(43)のように「没有～以前」の否定の形で用いることができ、この場合、日本語の「～ないうちに」と対応する。

(43) 趁没有忘记之前写封回信。

忘れないうちに返事を書きます。

〈汉〉

しかし、中国語でも、否定を用いない「～以前」の形では、生起が確実でない出来事を表わすことはできず、この点は日本語と共通する。

(44) *趁忘以前写封回信。

*忘れる前に返事を書きます。

5. さいごに

中国語では、基本的に、時間的な前後によってのみ、PとQを関係づけているのに対し、日本語では、単に時間的な前後によってPとQを関係づける場合と、Pと対立するP'を意識しながらPとQの時間的な前後関係を示す場合があり、日本語と中国語の間で、語と語の対応関係を考えると複雑なように思われる。以下は、本稿の考察をもとに、主な対応関係を示したものである。

うちに (第一のタイプ) (第二のタイプ)	うちに ～ないうちに うちに〈進行中〉 うちに〈繰り返し〉	～以前/時候/期間など (趁) 没有～以前 在～過程中, ～着 ～了～之后 など
までに		～以前 ⁹⁾
まえに		～以前
あいだに		～期間, 之間

日本語と中国語の時間的限定表現の違いで注目したいのは、日本語では繰り返しの過程で生じたと捉える出来事を、中国語では繰り返した結果生じた出来事と捉える、といった捉え方の違いがあることである。このような捉え方の違いがある一方、共通している点もあり、日本語の「まえに」も中国語の「以前」もPに否定形を用いることができるが、この場合、肯定形を用いた場合でも否定形を用いた場合でも同じ状況を表わしている¹⁰⁾。理論的に考えれば、Pに否定形を用いるのはおかしいように思われるが、日本語、中国語とも、使用が可能である点は興味深い。

注

- 1) 久野暉 1973, 浅野百合子 1975, 山田進 1981, 寺村秀夫 1981, 1992, 笠松郁子他 1993
- 2) Alfonso, Anthony 1966, 浅野百合子 1975
- 3) 寺村秀夫 1992 p.144~p.146
- 4) 久野暉 1973 p.93~p.95
- 5) 寺村秀夫 1992 p.144,p.145
- 6) 高橋太郎 1978 p.239 参照
- 7) 寺村秀夫 1992 p.137
- 8) 刘月华他, 相原茂監訳 1988 p.230
- 9) 「までに」は、中国語の「到」と対応することもある。村松由起子 1992 参照。
- 10) 輿水優 1985, 森田良行 1977, 森安達也 1988 参照。
輿水は、「方位詞“以前”あるいは“之前”を含む連語は、その前におかれる述詞性の連語が、肯定形でも否定形でも、そのあらわす意味は同じになる。たとえば“上大学以前”も“没有上大学以前”も「大学に入るまえ」を意味する」としている。

〈汉〉「汉译日基础教程」北京大学出版社
〈日〉「日语基础句型续集」北京工业大学出版社
〈気の毒〉「気の毒な症状」星新一
〈玄〉「玄鶴山房」芥川竜之介
〈野〉「野火」大岡昇平
〈舞姫〉「舞姫」川端康成
〈番〉「番号をどうぞ」星新一
〈硝〉「硝子戸の中」夏目漱石
〈白〉「白い人・黄色い人」遠藤周作
〈天〉「天の夕顔」中河与一
〈平〉「平凡」二葉亭四迷
〈標〉「标准日本語中級」人民教育出版社

参考文献

- (1) Alfonso, Anthony (1974) *Japanese Language Patterns*, Sophia University L. L. Center of Applied Linguistics
- (2) 浅野百合子 (1975) 「「うちに」「あいだに」「まに」をめぐって」『日本語教育』27号
- (3) 笠松郁子, 菅原厚子, 鈴木美都代, 登野城ルリ子 (1993) 「同時性をあわらす時間的なつきそい・あわせ文—「あいだ」と「うち」—」『ことばの科学6』むぎ書房
- (4) 久野暉 (1973) 『日本文法研究』大修館書店
- (5) 輿水優 (1985) 『中国語の語法の話』光生館
- (6) 高橋太郎 (1978) 「連体形のもつ統語論的な機能と形態論的な性格の関係」『日本語研究の方法』むぎ書房
- (7) 寺村秀夫 (1981) 『日本語の文法 (下)』国立国語研究所
- (8) 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集Ⅰ』くろしお出版
- (9) 中右実 (1980) 「テンス・アスペクトの比較」『日英語比較講座2 文法』大修館書店
- (10) 村松由起子 (1992) 「日本語の「まで」「までに」と中国語の「到」「以前」」豊橋技術科学大学紀要『雲雀野』第15号
- (11) 森田良行 (1977) 『基礎日本語』角川書店

「うちに」「まえに」「あいだに」「までに」について

- (12) 森安達也 (1988) 「チャレンジコーナー」『言語』 vol.17 No.9 大修館書店
- (13) 山田進 (1981) 「機能語の意味の比較」『日英語比較講座3 意味と語彙』大修館書店
- (14) 张国强編 (1993) 『日语基础句型续集』北京工业大学出版社
- (15) 迟军編 (1987) 『汉译日基础教程』北京大学出版社
- (16) 刘月华, 潘文娛, 故韦华 (1988) 『現代中国語文法総覧 (上)』くろしお出版